

平成30年6月23日

北海道新聞掲載

美深・恩根内小閉校から10年

現在開催中の企画展に作品を出展した登坂さん（左端）



施設は町中心部から北に15分ほど離れた恩根内地区にある。1階ギャラリーでは5月か18日を開催。今月は、美深町の画家登坂紘子さん(77)に

【美深】旧恩根内小校舎を活用した木工制作工房兼カフェ「アートビレッジ恩根内」が、小学校閉校10年に合わせた企画展を開いている。町内外の芸術家の作品を10月末まで月替わりで展示するほか、演奏会も企画。道北のアートを発信する拠点として地域に根付いており、関係者は「作品の魅力に触れてほしい」とPRしている。

（鈴木宇星）

旧校舎活用 of 工房 企画展

町内外作家の油絵や木彫 演奏会も

を展示する場所があり、幸せです」と感謝する。7月は、町内の画家長岐和彦さんの抽象画の個展を企画。6日に米国ニューヨークのアーティストによる演奏会、27日にはジャズのコムサートを開く。8月以降も町内や十勝管内豊頃町、神奈川県の作家らによる油絵や木彫などを展示する。

施設を運営するのは小樽市出身の工芸家工藤貢さん(69)。札幌芸術の森で版画を制作していたが、2008年3月で恩根内小が閉校すると知り、アトリエとして活用したいと美深町へ移住。翌年、旧校舎を町から借り、工芸品の制作拠点とした。芸術に触れる機会をつくらうと改装し、12年4月に施設を開いた。これまで道北ゆかりの画家の作品展や、地域住民が約30枚の校舎の壁に絵を描くイベントなどを開催。天塩川流域の魅力高めようと、地元産シラカバ材を使用した木製マグカップ「ククサ」も販売している。

工藤さんは「道北のアートを広めたいという思いに協力してくれる人がいたから続けられることができた。今後見る人が楽しい空間を作っていきたい」と話す。入場無料。開館は月、金、土、日の午前10時～午後4時30分。問い合わせはアートビレッジ恩根内 ☎01656・9・0005へ。